男女共同参画講演会（平成 27 年度サテライトセミナー）

男・女「らしく」でなく、「らく（楽）」に生きる
～多様な性のあり方から考える～

概要

１　日時
　　平成２８年１月３０日（土）午前１０時から午後０時１５分まで
２　場所
　　長久手市役所西庁舎３階　研修室
３　参加者
　　３３人

講師自己紹介

　本日は性的マイノリティについて、みなさんと一緒に考える機会をいただき、ありがとうございます。
　私は、同性愛者で、大学１年生のときにそれに気づきました。今は中京大学でジェンダーについて教えており、性的マイノリティを支援する市民活動団体にも所属しています。
　本日は、私の経験から、性的マイノリティの問題についてどう考えていったらいいのか、問題提起させていただきたいと思います。

身の回りにある多様な“性”

　山梨県の高校で、セクスチェンジデーが行われました。社会の課題を変えていくために高校生が何ができるかというアイデアとして、男女の制服を交換して 1 日過ごしてみるというものでした。男らしく女らしくという当たり前の意識が生きづらくしているのではという問題意識から、その「らしさ」にとらわれない社会の仕組みやルールを考ええることが目的でした。
　本日は、私たちの身の回りにある性や色々な「らしさ」につて考える 1 日にしていきましょう。

　性について考えるときに、女男の２つの性で考えることが多いですよね。でも、人間の性はもう少し複雑だといわれており、４つの次元から考えることができます。1 つ目は体の性です。2 千人に 1 人くらいは、男と女の中間の体を持った人もいます。2 つ目は、心の性です。自分の性に対する認識です。3 つ目は外見の性です。見た目の女らしさ男らしさのことです。4 つ目は好きになる性です。恋愛、性的意識がどこに向かうかということです。

　LGBT の L（レズビアン）G（ゲイ）B（バイセクシャル）の人たちは性的指向による少数派です。最後の T（トランスジェンダー）の人は、自分の戸籍上の性別とは違う性で生きていきたいという人のことです。医師の治療を受けて与えられる診断名が、性同一性障害となります。トランスジェンダーの人のなかに、性同一性障害という診断をされているひとがいるという理解でいいと思います。

性的マイノリティがいる日常

いくつかの統計をもとに、ざっくりというと、同性に魅かれる人は、20 人に 1 人いると推測できます。

また、性同一性障害の人は、国内で３万３千人くらいいるという推定があります。性的指向、心の性に対する少数者を合わせると、全人口の５～６％はいるということになり、日常、職場や学校のクラスにも、大抵いると考えられますよね。

男性に魅かれる男性は、心が女性だから男性に魅かれるのではと思われることがありますが、男性同性愛者は、男性として男性を好きになる。体の性は男性で心の性が女性の人には、女性が好きな人もいるし、男性が好きな人もいる。性のあり方は多様なのです。

性的マイノリティを取り巻く社会、環境

世界には、同性愛が禁じられている国もあるし、死刑になる国もあります。同性婚を認めている国は世界で 20 カ国あります。アメリカでは、昨年、同性婚がすべての州で合法化されました。

日本は、処罰もしないけど承認もしていないという分類に入るのですが、地方公共団体で、同性愛者の権利や存在を認める動きが出てきました。

日本では、性別適合手術やホルモン治療をする医療機関が少ないため、外国で手術をしたり、治療に対して保険が適用されず、実費がかかるという問題があります。

2003 年に、性同一性障害の人が戸籍の性別変更ができる法律ができましたが、日本は国際的に見ても変更の条件が非常に厳しいといわれています。未成年の子どもがいないことや、生殖能力がない、つまり性別適合手術の実施といった条件がある。手術は体に負担がかかるため、健康上できない人もいるし、お金もかかります。そういった人に対する対応が課題となっています。

性的マイノリティの子どもたちの現実

LGBT の約半数が、学校で言葉や暴力のいじめを受けたという結果があります。特に、性的違和のある男子が一番被害にあっています。

その中で、いじめの相談をしたのが約半数で、その相手は、母親と担任の先生が多く、同級生に相談する人は少ないようです。これを見ると、大人を頼ったというのがわかります。

しかし、先生側では、性的マイノリティのことについて生徒に教えるという必要性については認識されていません。これは、先生方もそういった教育を受けていないという社会的背景が原因でもあります。学校が性的な偏見について、生徒にきちんと教えられていないというのは問題です。

そして、家庭では、性的マイノリティのことを笑っていい、馬鹿にしていい、という環境であることが多く、自分を大切にしようと思う気持ちが低下し、社会的に自分を肯定できなくなってしまうのです。自殺を考えたことがある性的マイノリティの数は、一般の人に比べると多いのが現状です。

性的マイノリティについて知っていることの大切さ

　同性愛者は、しばしば同性愛者といるときと、そのほかの友人といるときでは、顔が違い、2 つの顔を持った生活になることがあります。私自身も友人にゲイであるとカミングアウト（相手に自分のことを打ち明けることをカミングアウトという。）したときに、ようやく 2 つの顔が統合されました。よりよい関係を築くためにカミングアウトをするけれど、相手に嫌がられたりすることもあるので、カミングアウトは、とても勇気がいることなのです。
　時に、カミングアウトした相手に「個人の自由だから」とすっと流されてしまうこともあり、それはそれでさみしいものです。気になることは聞いてもらって構わないし、率直なコミュニケーションをとれる関係性を築いていきたいのです。

あなたができること

　ウェルカミングアウト、ウェルカムとカミングアウトを掛けた言葉があります。身の周りに性的マイノリティがいても OK ですよ、と普段の何気ない行動で伝えていけるといいですね。性的マイノリティがカミングアウトしやすい環境づくりが大事です。
　例えば、私が「彼女いるの？」と、異性愛が前提となった質問を受けると、同性愛者は存在を認められてないのだな、と悲しくなります。「パートナーがいますか」と言われれば、答えることができます。今日のように、アンケートの性別欄に「その他」があるのもいいですね。
　とある中学生に、性的マイノリティの問題に対して「自分に何かできることはないか」と聞かれた時にはこう答えました。クラスで、もし性的マイノリティがからかわれている現場に出会ったら、一緒に笑ったりするのではなく、疑問を呈するだけでもいいと思う、と。

多様な人が多様に生きる社会になると

　私たちはみな、一人ひとりが違う個性を持って生まれてきています。男／女でなく、一人ひとり異なる個性を持っているのです。多様性をもって生まれてきているのに、男／女という 2 つの枠に当てはめて、人の生き方を狭めようとしているのではないかと思います。自分が性的マイノリティであることを隠そうとしていると、人との付き合いも深くなっていきません。それぞれの個性が受け入れられない社会というのは、本来持っている活力を奪っているのです。
　性的マイノリティの問題だけでなく、一人ひとりの性のあり方を認め合う社会の延長線上に、性的マイノリティが生きやすい地域、学校があると思っています。

トークセッション　～風間先生×恒川裕紀さん～

※以下、風間先生の発言部分を　か）、恒川さんのを　つ）と表記します。

つ）私は、今、日本福祉大学３年で社会福祉を学んでいます。体の性は女性、心の性は男性です。外見の性は、中性的なファッションが好きなので、日によって変わります。好きになるのは、基本的に女性です。でも今後変わるかもしれません。
今日はトランスジェンダーとしてお話ししますけれど、私のことはひとつの例として聞いてください。

か）本日は、恒川さんに、幼少期、中学、高校、大学と順を追って、どういう問題に直面してきたかを聞いていきます。

～幼少期～

か）まず、幼少期はどうでしたか？

つ）ボーイッシュな女の子、というような感じでした。スカートが好きでなかったし、男勝りな性格でした。それに対して、親は否定せず、好きな服も着せてくれていました。

か）ランドセルは何色だったのですか？

つ）青が好きだったのに、親が買ってきたのは赤のランドセルで、それが嫌で大泣きしました。のちに聞いたら、いじめられることを心配してのことだったのですが、当時はとても悲しかったです。

～中学・高校～　性同一性障害の認識、改名、ホルモン治療、学校の対応

か）中高一貫の女子高に入ってからはどうでしたか。

つ）入学してから、女の子ばっかりという環境に少し違和感を感じたものの、理由はわかりませんでした。家庭科では、いいお嫁さんになりなさい、という教育があって、自分も周りと一緒になって女らしくしなきゃと思って、頑張っていました。その結果、だれか別の人を演じる生活になりました。

か）女らしい自分を演じるのが苦痛になっていったのでしょう。そんな中で、中学のときに、学校に行かなくなったのはなぜですか？

つ）最後の決め手は、家庭科の授業がどうしても嫌になったことです。それと、女らしくという言葉が何か気になってきて、だんだんと行かなくなりました。

か）その後は公立学校へ転校したのですよね？

つ）公立中学へ転校したが、男と女が明確に分かれているのは、実は共学だということが分かりました。まず制服が違い、並ぶ場所も違う、お互いが異性を意識していました。
　私は男性側ではないということを認識させられているような感じがして、受験終了を機に行かなくなりました。

か）学校に行かなくなった背景として性同一性障害かもしれないと思ったということはありますか？

つ）その言葉を知ったのが、学校に行かなくなってからでした。不登校の原因を探している中で、性同一性障害を知って、自分のことかもしれないと思いました。

か）両親にカミングアウトはしましたか？

つ）言葉を知って、母にはすぐ言いました。

か）反応はどうでした？

つ）母は、言われればそうかもね、とあっさりと受け入れてくれました。父はその学校にいくことをすごく期待していたので、後ろめたさもあり、母から伝えてもらったのですが、お互いどう接すればよいのか分からず、すごくぎくしゃくしてしまいました。でも、徐々に受け入れてもらえました。

か）高校は、私立を選んだそうですがどうしてですか？

つ）デザインができることと、女子でもスラックスの制服があるという点で、その学校を選びました。

か）スラックスを履いた女子はどれくらいいましたか？

つ）最初は、500 人のうち２、３人だったが、自分がいつも履いていたら、クラスに２，３人になりました。

か）周りの反応はどうでしたか？

つ）どうしてスカートじゃないの？とよく聞かれました。それに対して、どう答えようかと考えた結果、スカートがはきたくない、ズボンがはきたいんだと答えるようにしました。

か）女子と男子のズボンは一緒だったのですか？

つ）違いました。男子の制服が着れるわけではなかったので、それがすごく気になるようになりました。

か）高校２年生のときに名前を変えたんですよね、その経緯を教えてください。

つ）1 年生のときに男性のズボンが履けるようにしてもらい、見た目は男子として見られるようになったけれど、名前は誰が聞いても女の子の名前でした。自分で書くこともつらいし、周りの反応も嫌だったので、改名をしようと決意しました。裁判所に申し立てをして、許可されました。

か）学校への報告はどうしましたか？

つ）法律的に改名してから報告し、配慮してもらうようにお願いしました。学校側は前例がなかったものの、否定されることはありませんでした。クラス担任の先生から学年の先生に名前の変更を周知し、名簿も変えてくれました。

か）クラスメイトの反応はどうでしたか？

つ）最初は、名簿が変わっただけだったから誰も気づきませんでした。でも、とある授業のときに、先生に下の名前で呼ばれたときに、クラスメイトがざわついたので、その時に名前が変わったことを説明しました。内心ドキドキしたが、「名前って変えれるの？」とか「どうやって変えるの？」という反応でホッとしました。

か）高校３年生からホルモン剤を投与し始めた経緯を教えてください。

つ）大学からは男性として生活したかったということもありたため、ガイドラインで認められている 18 歳になってすぐにホルモン投与を開始し、乳房も切除しました。

か）声変わりもしましたか。

つ）そうですね。風邪かなと思っていたら声変わりでした。脂肪も落ちました。体育は女子生徒として参加していたけれど、トイレはなんだが申し訳ないと思い、学校に相談したら多目的用トイレを使っていいということになりました。

か）高校側の対応は今振り返るとどうですか。

つ）自分が言わないと何も動かなかったです。言ったときに否定はしないけど、すぐにOK ということもなかったです。学校側にひとつひとつ、親とともに説明もする必要がありました。でも、否定的な発言などはなかったので、その点は感謝しています。

か）要望するときは親と一緒でしたか？

つ）三者面談などのタイミングで話をしました。

～大学～　男性としての生活、社会への新たな不安

か）大学に入学する前に、事前に相談行きましたか？

つ）男性として生活したかったため、学生証に性別の表記があるかと、合宿をどうするかを事前に相談しに行きました。学生証は性別の表記はなく、合宿は、保健室の先生の部屋にある浴室を使用してもいいということになりました。

か）大学も性同一性障害の学生に対応した経験があったんでしょうか？

つ）公式に話に行ったのは、私が初めてだったそうです。でも、ジェンダー論の先生いわく、学内にはたくさんいるとのことです。

か）中京大学にも、性同一性障害の学生がいます。どこの大学にもいる状況だと思います。今、大学で困っていることはありますか。

つ）今はあまりないです。ときどきあるのが、先生の持っている名簿には性別欄があり、男はくん、女はさんと呼ばれるときに、恒川さん、と呼ばれたりすることです。それから、アルバイトをするときの履歴書の性別欄に戸惑います。今は性別が記載されたマイナンバーの通知カードも提出しなければならなくなり、そのときに初めてカミングアウトするということになりました。それが原因で解雇されることはないけれども、この先が不安になりました。

か）就職の際に、苦労する人も多いのが現状ですね。最後に、身の周りに性的マイノリティがいた時にどういう対応をしていったらいいかを教えてください。

つ）この人ならカミングアウトしてもいいかも、というような人に、みなさんになっていただきたいです。実際カミングアウトしても、何かが変わるわけでなく、ありのままを受け入れてもらいたいと思います。カミングアウトをなぜしたのかは、人それぞれですが。質問があれば、私は直接聞いてほしいです。カミングアウトしてからがスタートなので、カミングアウトしたら終わりではなく、そこから関係づくりが始まると考えて欲しいです。

か）恒川さんの学校時代のお話を通して、性的マイノリティが社会でどんな問題に直面するかを少し理解していただけたのではないでしょうか。

みんなでワークショップ～講演で発見したことを共有しよう～

講演とトークセッションを踏まえて、下記の２つのテーマでグループワークを行い、出た意見を発表しました。

テーマ①　性的マイノリティの児童・生徒が学校で直面する問題とその対応

⑴　児童・生徒はどういう問題に悩むか
・自分のアイデンティティがわからなくなる。
・声変わりなど身体の変化に戸惑う。
・ランドセルの色や制服に違和感を感じる。
・性別による区別が出てくる家庭科、体育の授業、宿泊行事、健康診断などの学校カリキュラムや行事に戸惑う。
・トイレなどの設備面で戸惑う。

⑵　学校として何ができるか
・研修を通して、先生が性的マイノリティを正しく理解し、対応できるようにする。
・生徒、保護者への性的マイノリティをめぐる問題について伝える。
・いつでも相談できる相談窓口を設置する。

⑶　保護者として何ができるか
・保護者が性的マイノリティについて正しく理解する。
・子どもが相談したり、子どもと話ができるような環境をつくる。
・否定せず、受け入れ、見守る。

テーマ②　性的マイノリティの同僚が職場で直面する問題とその対応

⑴　同僚はどういう問題に悩むか
・昇格や昇任に影響するかもしれないという不安を持つ。
・トイレ、ロッカーなどの設備面で戸惑う。
・異性愛を前提とした何気ない会話などに傷つく。
・性別による業務、役割分担に戸惑う。

⑵　職場として何ができるか
・研修を通して、性的マイノリティについて正しく理解する。
・組織のトップが、性的マイノリティに配慮した企業であることを公言する。

まとめのことば

恒川裕紀さん

　私が性的マイノリティであることを親に受け入れられたことは、恵まれていることだと周りの方から言われることがあります。もちろん親にはとても感謝しているのですが、これが特別なことなのではなく普通であるような社会になるといいなと思いました。
　職場では、男女の役割分担意識がまだ根強いと思います。男らしさ、女らしさを大切にする人、その考えにより生きづらくなる人両方がいます。どちらの価値観も否定することなく、みんなが生きやすい社会になることを願っています。

風間孝先生

　参加者の中で、自分の息子がゲイで、親としては受け入れられたけど、周囲にそれをどう伝えたらいいかわからないという方がいらっしゃいました。これは地域の問題でもあるのです。地域や職場に、当たり前に性的マイノリティがいるという意識が広がっていくことが、性的マイノリティのメンタルヘルスをよくすることにもつながっていくと感じています。
　そして、性的マイノリティが置かれている状況をよりよいものにしていくために知識を得ることは大切です。一方で、困っている人がいたら、その人の話を聞いて、悩みの解決策を一緒に考えていく。こうした当たり前のことは、性的マイノリティに対しても当てはまります。そういった場面に直面したときに、知識が足りないと思ったら、自身で学んでみることからスタートすることもできますし、知識がなくても悩みにいっしょに考えていくことで対応していくこともできます。両方が必要であると感じています。
　こういった学びの機会が、他の地域でも広がっていくといいなと願っております。
　本日はありがとうございました。